

愛、知、和

No. 2 令和4年 8月29日
発行 大宮開成中学・高等学校
生徒指導部

命の参観日 平和を伝える —広島出身の私ができること—

10年間で延べ36名のホストマザーになり、現在、全国の小中学校・高校・大学にて「命の参観日」という講演を多数行っている玉城ちはるさんをお招きして、高校2年生を対象に「命の参観日 平和を伝える —広島出身の私ができること—」について講演していただきました。シンガーソングライターでもある玉城さんは、心に響く素敵な歌も披露してくださいました。秋に国内研修で広島を訪れる高校2年生にとって「平和とは何か」を考える、よい機会になったと思います。

◇玉城ちはるさんのプロフィール

1980年生まれ。広島県出身。19歳で上京し、音楽活動を始める。24歳の時、偶然の出会いから中国人留学生の面倒をみることになる。その後「自身に出来る社会貢献」としてアジア地域の留学生支援活動「ホストマザー」を10年間継続、36名の留学生を送り出し、その模様が日本テレビ系24時間テレビやNHKなどで取り上げられる。2014年には10年間取り組んできた「ホストマザー」の活動が認められ、公益財団法人日本ユースリーダー協会 第5回「若者力大賞～ユースリーダー賞～」を受賞。2011年からは広島安田女子大学にて非常勤講師をしている。



◇「多文化共生」

玉城さんは貧しくて部屋を借りられない外国人留学生や、養護施設、ひとり親家庭で育った日本人など、さまざまな環境で育った人々をホストマザーとして受け入れてきました。一つ屋根の下で様々な国の子供たちと暮らすなかで、文化の違いを痛感することが多々あったようです。

例えば、ある中国人の男の子は玉城さんが毎日作る食事を必ず少し残したそうです。玉城さんは悲しくなり、「どうして私が一生懸命作った食事を残すの!」と彼に強くあたってしまいました。しかし、彼は玉城さんに、「中国ではご飯を少し残すことが作ってくれた人に対する感謝を伝える行為なんだよ」と教えてくれたそうです。玉城さんはこのことを通じて、自分にとって当たり前だと思っていることが、相手にとっても当たり前であるというわけではない。誰が正しいとか誰が悪いということはなく、皆それぞれの文化や思想があるのだから皆正しいのだ、ということを感じたそうです。

◇「対話をする」

玉城さんは様々な文化の中で育ったお子さんたちと一緒に暮らしていくなかで、思っていることは口に出さないと相手に伝わらない、対話をするということがとても大事だ、と感じるようになったそうです。同じ文化の中で育ち、同じ言語を話す家族、友達、先生とも100%のコミュニケーションをとることはできない。だからこそ自分の思いをきちんと相手に伝えて、相手と「対話をする」ことはとても大事だ、と玉城さんはお話してくださいました。

◇「平和について」

ホストマザーの経験を経て玉城さんは「他者を理解し、ちがいを認め合う」ことが平和に繋がると感じたそうです。たとえ違う文化で育って、違う価値観を持っていたとしても、対話をして、相手のことを認めることで「平和」という一つの目標に向かって協力することができる、とおっしゃってくださいました。

本日玉城さんから伺ったお話を胸に刻み、国内研修でさらに「平和」についての考えを深めていきましょう。

講演感想文

出身国などは関係なく人と関わる時は「感謝」「謝罪」「愛情」を意識して大切に生活していこうと思いました。今日の話をもつて国内研修では平和について自分なりの考えを持って、また友達がどう思ったかなども聞いて、たくさんの方の話を学ぶ機会にしたいです。(一貫生徒)

国によって価値観や感謝の表し方が違うことは知っていてもそれを理解するには時間がかかるので目を見て対話することが必要だと分かりました。文化の違いによって信じているものが違えど、平和の定義は違えど、正しいと思うことが違えど、1つの目的意識を持ってそれに向かって走ることはできるのだと知り、自分にもそのようなことがいつかできればいいなと思います。(先進生徒)

家族や友達など、同じ言葉を話す相手でも理解し合ってコミュニケーションをとることは難しいのに、自分とは違う文化の中で育ってきた子のことを理解しようとして一緒に暮らすのは本当に大変だろうし尊敬しました。(I類生徒)

私は友達と喧嘩した時に相手が絶対に悪い、私は絶対に悪くない、となかなか素直に謝れないことが何度かありました。けれど、玉城さんの「誰が正しい、誰が悪い、ということではなくて皆それぞれの文化や思想があるのだから皆正しい」という言葉を聞いて、共に生きていくためにも互いの考えの違いや生活の仕方の違いをお互いに受け入れていくことも大切だなと思いました。(II類生徒)